



TITLE:

編集後記 (泌尿器科紀要 第47巻第  
8号)

AUTHOR(S):

---

CITATION:

編集後記 (泌尿器科紀要 第47巻第8号). 泌尿器科紀要 2001, 47(8): 610-610

ISSUE DATE:

2001-08

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/114574>

RIGHT:

4. 論文の訂正：査読審査の結果、原稿の訂正を求められた場合は、40日以内に、訂正された原稿に訂正点を明示した手紙をつけて、前記泌尿器科紀要刊行会宛て送付すること、なお、Editor の責任において一部字句の訂正をすることがある。
5. 校正：校正は著者による責任校正とする。著者複数の場合は校正責任者を投稿時指定する。
6. 掲載：論文の掲載は採用順を原則とする。迅速掲載を希望するときは投稿時にその旨申し出ること。
  - (1) 掲載料は1頁につき和文は5,500円、英文は6,500円、超過頁は1頁につき7,000円、写真の製版代、凸版、トレース代、別冊、送料などは別に実費を申し受ける。
  - (2) 迅速掲載には迅速掲載料を要する。5頁以内は30,000円、6頁以上は1頁毎に10,000円を加算した額を申し受ける。
  - (3) 薬剤の効果、測定試薬の成績、治療機器の使用などに関する治験論文および学会抄録については、掲載料を別途に申し受ける。
7. 別冊：実費負担とし、著者校正時に部数を指定する。

#### Information for Authors Submitting Papers in English

1. Manuscripts, tables and figures must be submitted in three copies. Manuscripts should be typed double-spaced with wide margins on 8.5 by 11 inch paper. The text of all regular manuscripts should not exceed 12 typewritten pages, and that of a case report 6 pages. The abstract should not exceed 250 words and should contain no abbreviations.
2. The first page should contain the title, full names and affiliations of the authors, key words (no more than 5 words), and a running title consisting of the first author and two words.  
e.g.: Yamada, et al.: Prostatic cancer · PSAP
3. The list of references should include only those publications which are cited in the text. References should not exceed 30 readily available citations. Reference should be in the form of superscript numerals and should not be arranged alphabetically.
4. The title, the names and affiliations of the authors, the director's name, and an abstract should be provided in Japanese.
5. For further details, refer to a recent journal.

### 編 集 後 記

毎年7月末には泌尿器科紀要の稲田賞受賞講演会と授賞式が行われる。今年も2名の受賞者に30分の講演をお願いし、また授賞式後には懇親会でいろいろとお話をさせていただいた。一年間の紀要投稿論文の中から最優秀と思われる論文が厳正な審査のもとに選考されるのであるから、講演会では例年活発な質疑応答があり大変有意義なものとなっている。

編集委員長の私が言うのもおかしいが、ほんとうに立派な楯と記念品が贈られる。また名誉編集委員長の意見で金一封も増額され、一生の記念に残る「もらってうれしい」賞になっている。私も出来ればいただきたい賞であるが、残念ながら私自身は受賞の対象になったことすら無く、いまとってはその機会も奪われたように思う。(編集委員長自らの投稿論文が稲田賞を受賞してはいけないという規定はないように思うのであるが…….)

ノーベル賞、国民栄誉賞からゴルフのブービー賞まで世の中には色々な褒賞があるが、特に科学の分野において優秀な若手研究者に送られる賞の意義は大きい。受賞をきっかけとして活躍盛りの研究者のモチベーションが高められ、また受賞をアピールすることで研究費獲得やプロモーションの機会が増えればこれ以上のことはない。受賞理由は過去の研究成果ではあるが、将来への期待分も半分以上入っているのである。

(小川 修)